

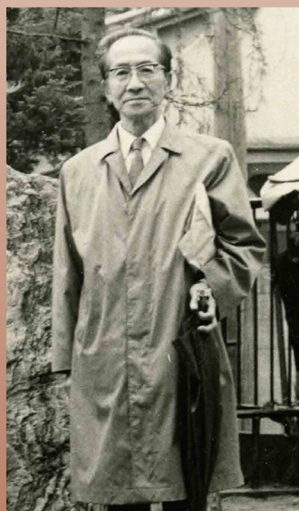
ち めい せん じゅ こう 地 名 千 住 考

— 発見された郷土史家の未発表原稿 —

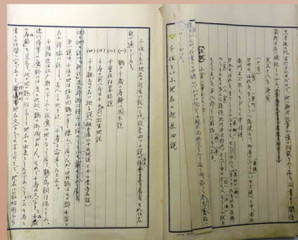
「千住」という地名の由来には諸説あります。かつてこの地に千住の縁起物として知られる田鶴が多く住んでいたことに由来するという説。嘉暦2(1327)年、新井図書政次が、荒川(現在は隅田川)で千手観音の像を見つけたことにちなみ、「せんじゅ」と呼んだという説。足利義政の愛妾「千寿の前」の出生地であることに因むという説。かつて千葉氏が住んでいたので「千葉住村」といったのを、のちに略して「千住」といったという説もあります。いずれも確かな根拠はありませんが、少なくとも徳川家康の入府以前、戦国時代には、千住という地名がすでに使われていたことが確認できます。



▲千寿観音像(勝専寺蔵)



▲福島憲太郎氏写真(『足立史談』500号)



▲福島憲太郎氏の未発表原稿「地名千住考」

「地名千住考」とは、故福島憲太郎氏による未刊行の原稿のタイトルです。元千住葱専門問屋十一代目川崎屋 福島氏は、千住にまつわる多くの資料を収集し、建部巢兆の研究者としても知られました。彼の集めた多くの資料は郷土博物館に寄贈され、展示や研究に大いに役立てられています。